



平成26年5月15日

各位

会社名 株式会社東理ホールディングス  
(コード番号 5856 東証第2部)  
代表者名 代表取締役社長 福村 康廣  
問合せ先 常務取締役 忍田 登南  
(TEL. 03-5524-7851)

## 特別損失等の計上、平成26年3月期通期業績予想数値と実績値との差異 並びに剰余金の配当に関するお知らせ

平成26年3月期の連結及び個別業績予想数値と比較して、本日公表の決算において、特別損失等の計上により、下記のとおり差異が生じたので、お知らせいたします。また、本日開催の取締役会で期末配当原資をその他資本剰余金とすることを決議しましたので、お知らせいたします。

### 記

#### I. 特別損失等の計上

##### 1. 特別損失の計上

連結業績に反映されるもの

- ・子会社（㈱ボン・サンテ）の閉店費用…下期 11 百万円

個別及び連結業績に反映されるもの

- ・固定資産の減損損失…下期 29 百万円
- ・役員退職慰労金引当金…下期 60 百万円

##### 2. 営業外費用の計上

連結業績に反映されるもの

- ・子会社（㈱グローバルフード&リカーサプライ）の転貸不動産賃借料…下期 12 百万円

##### 3. 営業外収益の計上

###### (1) 連結及び個別業績に反映されるもの

- ・貸倒引当金戻入…下期 2 百万円

###### (2) 連結業績に反映されるもの

- ・子会社（㈱東京理化工業所）の不要材料売却益…下期 11 百万円
- ・子会社（㈱ボン・サンテ）の通貨及び金利交換取引契約の円安による利益…下期 44 百万円
- ・子会社（㈱ボン・サンテ）の貸倒引当金戻入…下期 2 百万円
- ・子会社（㈱ボン・サンテ）の訴訟和解金…下期 2 百万円
- ・子会社（㈱グローバルフード&リカーサプライ）の転貸不動産賃借料…下期 13 百万円

###### (3) 個別業績に反映されるもの

- ・子会社（㈱日本スウェーデン福祉研究所）からの経営指導料…下期56百万円
- ・有価証券運用益…下期 6 百万円
- ・子会社（㈱オリオンキャピタル・インベストメント）に対する貸倒引当金戻入…下期 7 百万円

## II. 業績予想との差異について

### 1. 連結業績予想数値と実績値との差異（平成25年4月1日～平成26年3月31日）（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	20,378	321	562	485	5円22銭
今回実績 (B)	20,651	290	617	451	4円85銭
増減額 (B-A)	273	△ 31	55	△ 34	—
増減率 (%)	1.3	△ 9.7	9.8	△ 7.0	—
(ご参考) 前期実績 (平成25年3月期)	20,123	△ 813	△ 482	△ 1,120	△12円04銭

### 2. 個別業績予想数値と実績値との差異（平成25年4月1日～平成26年3月31日）（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	951	173	493	532	5円72銭
今回実績 (B)	865	123	495	467	5円02銭
増減額 (B-A)	△ 86	△ 50	2	△ 65	—
増減率 (%)	△ 9.0	△ 28.9	0.4	△ 12.2	—
(ご参考) 前期実績 (平成25年3月期)	788	△ 3	198	△ 230	△2円48銭

### 3. 業績予想と実績値との差異の理由

#### (1) 連結業績について

売上高及び経常利益が前回の予想を上回り、営業利益及び当期純利益が下回りました。その主な理由といたしましては、売上高につきましては、ダイカスト事業(149百万円)及びリフォーム事業(117百万円)における増加によるものであります。営業利益につきましては、売上高の増加及び個別業績への影響要因によるものであります。経常利益につきましては、営業利益への影響要因及び営業外収益・費用の計上によるものであります。当期純利益につきましては、経常利益への影響要因、特別損失の計上及び法人税等によるものであります。

#### (2) 個別業績について

売上高、営業利益及び当期純利益が前回の予想を下回りました。その主な理由といたしましては、売上高につきましては、当初売上高とする予定の子会社からの経営指導料の一部(△84百万円)を取りやめた、その一部を営業外収益(56百万円)としたことによるものであります。営業利益につきましては、売上高への影響要因及び販管費の減少によるものであります。当期純利益につきましては、特別損失の計上及び法人税等によるものであります。

## III. 期末配当の原資について

平成26年2月13日付の「営業外費用の計上等及び配当予想の修正に関するお知らせ」にて、期末配当予想を一株当たり1.5円とし、通期で合計2.0円の配当とすることをお知らせいたしましたが、本日、期末配当の原資を中間配当と同様にその他資本剰余金とすることといたしました。

その他資本剰余金を原資とする配当の理由は、当社は、安定した収益力の維持と更なる成長によって、企業価値の向上を図り、配当などを通して株主の皆様の期待に応えることを基本方針としております。この方針に基づき、平成26年3月期の期末の配当について検討を行い、平成26年3月期において業績が黒字転換し、平成27年3月期においても順調に推移すると見込まれることから、安定的に配当を継続することを目的に、当社の剰余金の状況を考慮し、その他資本剰余金を原資とすることといたしました。なお、本件は、平成26年6月25日開催予定の定時株主総会において正式に決定される予定であります。

(参考) 平成 25 年 8 月 13 日付 「特別損益の計上等、平成 26 年 3 月期第 2 四半期及び通期業績予想の修正並びに配当予想の修正に関するお知らせ」

以 上